

賀茂北高等学校 第1学年 地歴公民科単元指導計画

1 単元名

世界史A 世界の一体化 ～ヨーロッパ大航海時代のはじまり～

2 単元の目標

ヨーロッパによるアジア・アフリカ・新大陸の植民地化や交易圏の拡大などでヨーロッパが世界各地に進出したヨーロッパ大航海時代を多角的に考察することによって、新しく交流を開始したこれらの国々の中で起こった政治・経済・文化・社会の過程を理解する。また、これらの変化が、単一的な現象としての歴史理解でなく、違った国家・社会の交流の始まりは、相互に様々な反応を産みながら新しい変化を生み出すという視点を持った歴史的な思考力を育成できると考える。

3 育成すべき資質・能力

- 個人の意見を他の生徒と共有し、新しい個人の意見としてまとめる力
- 歴史のつながりを捉え、時代の変化を比較できる力
- 歴史的な情報を読み取り、史料を加工するなどして新しい情報を発見できる力

4 単元の計画（5時間目／全8時間）

時	主な学習活動
1	ルネサンス期に起きた変化とは何かをテーマに授業を進める。ルネサンス前後の宇宙観・絵画の技法・戦争の様子を比較することで、今までの中世ヨーロッパ社会に見られたキリスト教世界観から科学という新たな考え方が登場したことに気付く。
2	ヨーロッパが15世紀に世界に拡大していくきっかけとなるアジアへの憧れや、中国で発明されヨーロッパの海外進出の原動力となった火薬・羅針盤など新しい知識の登場を理解するために、ヨーロッパのルネサンスはなぜイタリアでスタートしたのかをテーマに授業を進める。十字軍・モンゴル帝国など既習事項を活用しつつ、新たなビザンツ帝国の滅亡などの要因と複合的に地中海を舞台にした海洋ネットワークとアジアのつながりを理解することで、ルネサンスがアジアとヨーロッパの交流の活発化によって生み出されたことを理解する。
3	大航海時代の到来をコロンブスはなぜ西を目指したのかをテーマに授業を進める。コロンブスの新大陸発見の意義は、単にヨーロッパが広い海域に進出したことのみでなく、大航海時代を通じて進んだ新大陸や球体としての地球という新たな領域的認識変化のきっかけを作り出し、新たにスペイン・ポルトガルを含めた大西洋側のヨーロッパ各国の海外進出のきっかけとなったことを理解させる。
4	スペインの新大陸征服というヨーロッパの進出領域拡大の過程を、スペインは広大な領域を征服をもとに授業を進めていく。この中で、鉄・銃などの武器のみでなく、インカ・アステカこそが征服王朝であったために、反対する勢力を味方に付けて現地の勢力を巻き込んだ事や、新大陸にもたらされた伝染病によって先住民自体が急激に減少していた事などを新大陸側の状況と絡めて理解する。
5	スペインによる新大陸の植民地化の影響について、キリスト教はどのように新大陸に広まっていったのかをテーマに授業を進めていく。スペインの植民地支配が、どのように現地の人々のキリスト教化をもたらしたか、また、植民地の先住民側にはどのような変化と反応があったのかを資料から読み取っていくことで、植民地支配が原因で文化が変容したという単一的な理解でなく、相互に多様な試みを積み上げていった複合的な要因の上に新大陸のキリスト教化があったという歴史的な過程を理解する。→本時
6	大西洋三角貿易の展開を、黒人奴隷貿易はどのような影響を与えたのかをテーマに学習を進めていく。単に奴隷貿易や植民地支配の展開という知識だけではなく、アフリカの黒人奴隷の流出は、アフリカ・新大陸・ヨーロッパのそれぞれの地域の産業を支え、現代の社会につながる影響を与えたことを理解させる。
7・8	今までの地球規模の交易の拡大とヨーロッパの海外進出のまとめを石見銀山の銀はどこへいったのかをテーマに調べ、まとめ学習を行う。今回の単元で学習した大航海時代の地球規模の交易ネットワークの拡大などの歴史的知識と共に、今回の単元で学習した国家の進出領域の拡大と新しい国家や集団との貿易や関係性の構築が、各地域の社会や経済に新しい影響を与え合い、新しい社会の変容を生み出していく過程を、日本とアジア・ヨーロッパの関連に注目し、まとめていく。

5 本時の目標

スペインの植民地支配がどのように現地の人々のキリスト教化をもたらした、また、植民地の先住民側にはどのような変化と反応があったのかを、新大陸におけるキリスト教の拡大を中心に資料から読み取っていく。この活動を通じて、生徒にスペインの力による強制といった単純な理解でなく、先住民とスペイン人の両者が多様な試みを積み上げていった複合的な要因の上に新大陸のキリスト教化があったという歴史の見方に気付かせ、歴史上の変化は様々な要因の上に生まれていくという歴史的思考力を育成する。

6 学習の流れ（5時間目／全8時間）

学習活動 (○発問, ●予想される生徒の反応)	指導上の留意事項 (◇) ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導	評価規準 〔観点〕 (評価方法)
<p>1 課題意識をもつ</p> <p>○このA～D 4枚の資料を起きた順番に並べた時、どのような順番になるでしょうか。また、この4枚の資料をならべるとどのようなストーリーが考えられるでしょうか。まず各グループで早く起きた順に並び替えてみましょう。</p> <p>○コロンブスがスペインの支援を受けて新大陸を発見して以降、スペイン人は現地のインカ・アステカ王国を倒して植民地を建設しました。今から配布する資料は、スペインの占領後の植民地で起こった出来事です。見つけてくれた通り、これらの出来事はキリスト教の布教に関する資料です。これらの出来事は16世紀に起き、スペイン植民地でキリスト教が広まってきました。では、どのようにして先住民をキリスト教化していったのでしょうか。配布したこれらの資料から読み取ってみましょう。</p> <p>2 本時のめあて（課題）提示</p>	<p>◇4枚の資料を時系列に並び替え、ストーリーを考えさせることで生徒に時代ごとにどのような変化が起こっていたのかや、キリスト教という宗教を軸に何かが起こったことについて知ろうとする課題意識を持たせて展開に入る。</p> <p>◇代表として2グループ選び、考えたストーリーを時系列に簡単に説明してもらうことで、キリスト教に関わる課題意識を共有する。</p> <p>◇PPを活用し、導入を簡潔に終わらせることで展開の時間をできるだけ確保するようにする。</p> <p>◆スペインの植民地支配の範囲を載せておくことで、スペインが植民地化した地域や地名がわかりにくい生徒に確認・理解しやすくする。</p>	
課題：スペインはどのようにして新大陸の地にキリスト教を広めたのか？		
ねらい：スペインの植民地支配が、どのように現地の人々のキリスト教化をもたらした、また、植民地の先住民側にはどのような変化と反応があったのかを資料から読み取っていくことで、植民地支配のキリスト教強制が原因で文化が変容したという単一的な理解でなく、相互に多様な試みを積み上げていった複合的な要因の上に新大陸のキリスト教化があったという歴史的な過程を理解する。		
<p>3 グループ活動 【各資料から読み解く活動】</p> <p><資料から読み解く活動①></p> <p>4つの資料から読み取る活動</p> <p>・資料A</p> <p>太陽神殿の破壊についての資料</p> <p>この二枚の資料からスペインの行ったキリスト教化は、先住民の宗教の破壊から生まれてきたことがわかる。つまり、征服者が一方的に押し付けていったという視点が見えてくる。</p>	<p>◆グループ活動とすることで、資料の読解が苦手な生徒であってもグループ内の生徒と協力して課題をこなせるようにする。</p> <p>◇各グループ5人で構成し、多様な生徒の意見を引き出すことにつなげる。この作業を全グループ同時に行う。</p> <p>◇絵画資料や資料に書かれた情報などを組み合わせて課題を解くことで、資料の活用や自ら課題を解決する思考を促すきっかけとする。</p>	<p>〔関心・意欲・態度〕 (グループワーク)</p>

<p>・資料B 褐色の聖母 褐色の聖母が描かれていることからお互いの信仰の対象を一つの聖母像に一体化させて、お互いが共存しようとしていた相互の妥協点が見えてくる。</p> <p>・資料C 教会で神父の話を聞く先住民 先住民が税の軽減目的だけでなく、自発的な宗教への情熱でも改宗や布教を行っていたという積極的にキリスト教を受け入れようとした視点が読み取れる。また神父の説教を様々な表情で聞いていることからインディオの多様なキリスト教受容の態度が見て取れる。</p> <p>・資料D 教会建築についての資料 サントドミンゴ教会は征服者のデザインに先住民が反抗しているようにも読み取れるが、一方でスペインは宗教を強制できる強い立場であり、逆に先住民はインカの赤色を残すのみで妥協せざるを得なかった弱い立場が読み取れる。</p> <p>4 各グループのまとめを発表する。その後、各グループのまとめた内容をもとに全体で議論を展開する。</p> <p><資料から読み解く活動②> 新しい資料Eを踏まえて新たな視点を発見する。</p> <p>・資料E インディオの神々の装飾が施された教会の資料 この教会の壁に先住民が信仰する神々が描かれていることから、当時のキリスト教布教がなかなかうまくいかなかった現実が見えてくる。だからこそ、教会が妥協して大胆に先住民の宗教を教会に持ち込むことを許可した。</p> <p>5 本時のまとめ 「スペインはどのようにして新大陸の地にキリスト教を広めたのか自分の言葉で説明しなさい」というまとめワークに個人のまとめを行う。</p> <p>6 振り返り</p>	<p>◆全くまとめが進まないグループには、資料の見方をアドバイスするが、最小限に留める。</p> <p>◇実物投影機を使い発表させることで、生徒のまとめを目視しながら理解できるようにする。</p> <p>◇4枚の資料は、キリスト教を布教する側が優位であったと読み取れる資料であったが、資料Eを提示することで、布教が思うようにいかずキリスト教側が大きく妥協していく現実を生徒に気付かせ、今までのキリスト教を布教する側のスペインが優位であった認識をくつがえす多様な思考の高まりを提供して、思考のレベルを上げる。</p> <p>◇本時の学習を振り返ることで、16世紀スペインの植民地支配がヨーロッパ文化の流入を用意した事、そして、南米のキリスト教化という、その流れを作ったのは単なるスペインの強制力ではなく、スペイン人とインディオの様々な相互の取り組みによって生まれた複数の流れによってだったという多面的な理解を確認する。</p>	<p>知識・理解 (ワークシート提出)</p>
--	--	-----------------------------